

2024年度

保育科の教育活動に関するアンケート

(卒業年次アンケート 分析結果)

1. 授業（学修）に関すること

昨年は評価が低かった科目数（Q6）と時間割編成（Q7）に関する満足度は、一定程度の改善が見られた。専任教員間での情報共有に基づく授業運営に加え、保育現場の最新事情を学修する授業科目「現代保育実践の課題」を開講したこともあり、より充実したカリキュラムによる教育活動が展開されたためと考えられる。実際、印象に残った活動（Q8）について、医療的ケアに関する事項が盛り込まれた「現代保育実践の課題B」を挙げる学生がいた。他方、従来表現活動に加え、体育や自然体験活動といった演習系科目を取り上げる学生もあり、座学だけではなく「演習系の授業」を望む声にも繋がっている。

また、「自分で取得できる資格を教えてほしい」という意見もあり、保育士資格や幼稚園教諭二種免許以外の資格（Q10）についても「取得したかった」と回答する学生が全体の7割を超えた。これまで以上に様々な保育ニーズがある中で、保育現場で活かせる資格の取得を促せられるようなカリキュラム編成についても検討していきたい。

2. 学生生活に関すること

(1) 教職員の学生対応やクラス制、友人関係に関すること

教職員の学生対応（Q15, Q16, Q17）に対する満足度も改善し、いずれも5点満点中4点以上（「やや満足」より高い評価）であった。また、学生同士の友人関係（Q13）やクラス制（Q14）に対する満足度も高く、保育系の学校ならではの「教員との距離の近さ」や「学生同士の仲の良さ」がうかがえる結果だった。

(2) 施設や設備に関すること

これまでの意見・要望を受けて、授業時間に合わせたバスの運行時間の調整や、学内wi-fiの設置など、学生生活を支える施設・設備の充実が図られてはきているが、バスの運行本数や無料化に加え、学生食堂の提供量（値段と比較した）、コンビニエンスストアの販売価格や営業時間などの要望は継続して挙げられている。過去の意見・要望も含め、改めて学園に改善を求めている。

3. 就職支援に関すること

教職員の就職支援（Q26, Q27）に対する満足度は高く、いずれも5点満点中4点以上の評価であった。また、就職ガイダンスやセミナーへの参加率も向上し、全体の8割以上の学生が1回以上は参加したことが分かった。その満足度も4点以上（「やや満足」以上の評価）であった。

4. 総合的に振り返って

総合的な満足度（Q29）も本年度の評価は高かった。5点満点中4点以上であり、「やや不満」や「不満」と回答した学生は一人もいなかった。コマジョらしさ（Q30）としては、先述した「教員との距離の近さ」や「仲の良さ」が最も多く、「明るさ」や「元気さ」が続いた。

この他、「自然に触れる授業」や「礼儀」「挨拶」も例年同様に挙げられたが、本年度は、「実践的な学び」や「気働き」というキーワードも挙がった。手遊びや絵本の読み聞かせ等の保育実技だけでなく、現場経験豊富な専任教員による実習指導が「保育に必要な心の資質」を考える機会にも繋がったと思われる。他方、「遊び心」や「表現」といった従来のディプロマ・ポリシーに由来するキーワードを挙げる学生は減りつつある。これらの意見（学生の心に残っているコマジョらしさ）を踏まえると、新しい教育目標への見直しも必要だと考えている。